



富山大学学報

昭和30. 9. 5

第 4 号

目 次

関係法令	法律, 政令, 省令, 規則, 告示.....	1	
学内規程	学則中一部改正.....	1	
	一般教育課程履修規程中一部改正.....	2	
	体育部会規程中一部改正.....	2	
	職業相談所規程中一部改正.....	2	
	教育学部規程中一部改正.....	2	
	薬学部規程中一部改正.....	3	
	工学部規程中一部改正.....	3	
人 事 学内通知	人事異動.....	5	
	工学部機械工学科, 薬学部 薬学専攻科設置認可.....	11	
	昭和30年度文部省科学研究費等につい て.....	11	
	昭和30年度文部省内地研究員決定.....	11	
	海外出張教官の帰朝.....	11	
	学生相談所開設.....	11	
	学報編集委員委嘱及び解嘱.....	12	
	部局情報	工学部教官の学位取得.....	12
		試験所について.....	12
		バックナンバー「Ohm」21カ年分 寄贈.....	13
日 誌	諸 行 事.....	13	
	日 誌 抄.....	14	

関 係 法 令

法 律

- 法律第34号 所得税法の一部改正 30.6.30官報
- 法律第85号 教育公務員特例法第32条の規定の適用を受ける公立学校職員等について学校看護婦としての在職を
準教育職員としての在職とみなすことに関する法律
30.7.25官報
- 法律第125号 女子教育職員の産前産後の休暇中における
学校教育の正常な実施の確保に関する法律
30.8.5 官報
- 法律第133号 国家公務員等退職手当暫定措置法の一部
改正 30.8.5 官報
- 法律第143号 恩給法の一部を改正する法律の一部改正
30.8.8 官報

政 令

- 政令第105号 国立学校設置法施行令の一部改正
30.7.1 官報

省 令

- 文部省令第13号 国立学校設置法施行規則の一部改正
30.7.1 官報

規 則

- 人事院15-4 非常勤職員の勤務時間及び休暇
30.7.20官報

告 示

- 文部省告示第58号 教育職員免許法により, 大学の聴講
生の課程を免許状授与の所要資格を得させるため適当な
課程として認定 30.5.18官報
- 文部省告示第66号 昭和30年度司書及び司書補講習実施
要綱 30.6.21官報
- 文部省告示第69号 昭和30年度司書教諭講習実施要綱
30.6.24官報

学 内 規 程

学 則 中 一 部 改 正

(昭和30年4月28日評議会にて改正)

富山大学々則の一部を次のように改正する。

別表(第1)中, 文理学部, 文学科, 講座欄の「古典文学第1講座, 古典文学第2講座, 西洋文学第1講座, 西洋文学第2講座, 西洋文学第3講座, 西洋文学第4講座」を「国文学及び中国文学第1講座, 国文学及び中国文学第2講座, 英文学第1講座, 英文学第2講座, ドイツ文学第1講座, ドイツ文学第2講座」に改める。

付則第1条を次のように改める。

第1条 本学則は昭和30年4月1日から実施する。

学則中一部改正

(昭和30年7月8日評議会にて改正)

学則の一部を次のように改正する。

別表(第2)を次のように改める。

一般教育科目人文科学関係の学科目欄中の「歴史学」を「歴史」に改め社会科学関係の学科目欄中の人文地理学の次に「統計学」を加える。

外国語の学科目欄中「独語」を「ドイツ語」に「仏語」を「フランス語」に改める。

付則第1条中「昭和30年4月1日」を「昭和30年7月1日」に改める。

学則中一部改正

(昭和30年7月29日評議会にて改正)

学則の一部を次のように改正する。

第5条第5項中「工業化学科及び金属工学科」を「工業化学科、金属工学科及び機械工学科」に改める。

第50条中教育学部の定員表を次のように改め、

教育学部

第一中等教育科	260名
第二中等教育科	40名
第一初等教育科	280名
第二初等教育科	200名

工学部金属工学科の次に次の項を加える。

機械工学科 120名

「第11章」を「第12章」とし以下1章ずつ繰り下げる。

「第56条」を「第64条」とし以下1条ずつ繰り下げる。

第10章 第55条の次に次の1章7条を加える。

第11章 専攻科

第56条 本学に次の専攻科をおく。

薬学専攻科 薬学専攻

第57条 薬学専攻科の修業年限は1年とする。

第58条 薬学専攻科の学生定員は7名とする。

第59条 専攻科に入学を許可すべき者は学校教育法第57条

第2項及び同施行規則第70条の資格を有するものにつき、選考の上これを定める。

第60条 専攻科の学科課程は別に定めるところによる。

第61条 専攻科に1年以上在学し、所定の単位を履修取得した者は課程を修了したものと認め修了証書を授与する。

第62条 専攻科の授業料等は次のとおりとし、徴収方法等については授業料等に関する各条項を適用する。

授業料	年額	6,000円
-----	----	--------

検定料 400円

入学料 400円

別表(第1)工学部の金属工学科講座欄中の「機械工学第1講座、機械工学第2講座、機械工学第3講座」を削り、金属工学科の次に次の学科及び講座を加える。

機械工学科 | 機械工学第1講座、機械工学第2講座、
機械工学第3講座

付則中第1条を次のとおり改める。

第1条 本学則は昭和30年7月1日から実施する。

但し第50条の改正規定のうち教育学部の項については昭和30年4月1日から適用する。

一般教育課程履修規程中一部改正

(昭和30年7月8日評議会にて改正)

一般教育課程履修規程の一部を次のように改正する。

第2条第1項第2号社会科学の系列の学科目人文地理学の次に「統計学」を加える。

付則中「昭和29年11月19日」を「昭和30年7月1日」に改める。

体育部会規程中一部改正

(昭和30年4月28日評議会にて改正)

体育部会規程の一部を次のとおり改正する。

第9条中「厚生係長」を「補導係長」に改める。

付則中「昭和24年8月1日」を「昭和30年5月1日」に改める。

職業相談所規程中一部改正

(昭和30年4月28日評議会にて改正)

富山大学職業相談所規程の一部を次のとおり改正する。

第3条を次のとおり改める。

第3条 本所の事業所を次の5か所とする。

文理学部事業所

教育学部事業所

経済学部事業所

薬学部事業所

工学部事業所

付則中「昭和24年9月26日」を「昭和30年5月1日」に改める。

教育学部規程中一部改正

(昭和30年5月13日評議会にて承認)

教育学部規程の一部を次のとおり改正する。

第18条中「聴講料」を「授業料」に改める。

付則中「昭和26年11月1日」を「昭和30年5月1日」に改める。

薬学部規程中一部改正

(昭和30年7月29日評議会承認)

薬学部規程を次のとおり改正する。

第4条中「別表」とあるを「別表(1)」に改める。

「第5章」を「第6章」とし「第28条」を「第33条」とし、以下1条ずつ繰り下げる。

第4章第27条の次に次の1章5条を加える。

第5章 薬学専攻科

第28条 薬学専攻科に関しては、富山大学々則に定めるもののほか、この条項による。

第29条 薬学専攻科の学科課程は、別表(2)の通りとする。

第30条 履修単位は30単位以上(講義3科目以上、10単位以上及び実習(研究報告を含む。)20単位とする。

第31条 入学を志望するものは、次の各号の1に該当するものでなければならない。

1. 薬学専攻と関連ある理科系学部学科を修了した大学卒業者
2. 前号と同等以上の学力があると認められた者
 - イ. 旧大学令による大学を卒業した者
 - ロ. 旧高等師範学校規程による高等師範学校専攻科を卒業した者
 - ハ. 旧中学校令による中学校若しくは高等女学校を卒業した者、または旧専門学校入学者検定規程により、これと同等以上の学力を有する者と検定された者を入学資格とする旧専門学校令による修業年限5年以上(予科の修業年限を含む。)の専門学校を卒業した者
 - ニ. 旧専門学校令による修業年限3年の専門学校を卒業し、更に研究所等において、研究実績2年以上を有する者。
 - ホ. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

第32条 入学者の選考は、出身大学の調査書並びに学力試験及び身体検査によつて行う。

付則を次のように改める。

本規程は、昭和30年7月1日から施行する。

「別表」を「別表(1)」に改める。

別表(2) 富山大学薬学部専攻科学科課程

学 科 目	単 位 数
薬 化 学 特 論	4
理 論 化 学 特 論	3
薬 品 分 析 学 特 論	4

特 殊 分 析	2
生 薬 化 学 特 論	4
生 薬 学 特 論	2
薬 品 製 造 学	2
合 成 化 学	2
公衆衛生学及び衛生化学特論	3
製 剤 学 特 論	2
薬 局 学	2
生 理 化 学 特 論	3
微 生 物 化 学	2
薬 物 学 特 論	3
内 分 泌 化 学	2
薬 化 学 実 習	2 0
特 殊 分 析 学 実 習	2 0
生 薬 及 び 生 薬 化 学 実 習	2 0
薬 品 製 造 学 実 習	2 0
公衆衛生学及び衛生化学実習	2 0
薬 剤 学 実 習	2 0
生 理 化 学 実 習	2 0
薬 物 学 実 習	2 0

工学部規程中一部改正

(昭和30年4月28日評議会承認)

工学部規程を次のとおり改正する。

「第4章」、「第12条」、「第13条」、「第14条」を次のとおり改める。

第4章 聴講生及び研究生

第12条 学則第60条第1項により聴講を希望する者は、聴講科目を選定し、又学則第61条により研究を希望する

者は、研究題目、希望する指導教官名、在学期間等を定め、夫々授業開始の10日前までに下記の書類を学部長に提出しなければならない。

1. 入学願書
2. 履 歴 書
3. 身体検査書

第13条 聴講生及び研究生の選考は教授会が行う。

第14条 聴講生及び研究生には、所定の授業料の外、実験実習等につき別に実費を徴収することがある。

第15条を削除する。

別表を次のとおり改める。

別表 電 気 工 学 科

学 目 科	単位数	学 目 科	単位数
専攻科目		電気工学概論	3
電気磁気第 1	2	電気工学特論	
電気磁気第 2	4	卒 業 論 文	6
電気磁気演習	2	関連科目	
電気回路第 1	3		工業化学概論
電気回路第 2	4	金属工学概論	3
電気回路演習	2	機械工学概論	3
電気磁気測定	2	機械工作法大意	2
電気機器第 1	4	工業力学	2
電気機器第 2	4	蒸気原動機	6
電気機器第 3	4	工業電気化学	4
電気工学設計製図第 1	2	水 力 学	2
電気工学設計製図第 2	4	機 構 学	3
発電及び変電	4	応 用 数 学	2
送電及び配電	4	応 用 物 理	2
電力応用	4	工 業 英 語	2
電気材料	2	体 育	1
高電圧工学	2		
法規及び管理	2		
有線通信	6		
無線通信	4		
高周波応用	4		
伝送学	2		
電子工学	2		
電気工学第 1 学	4		
電気工学第 2 学	4		
電気工学第 3 学	2		

備考 電気工学特論の単位数は必要に応じて定める。

工業化学科

学 目 科	単位数	学 目 科	単位数
専攻科目		化学工学	2
繊維工業化学	2	化学工学実驗	2
燃料概論	2	工業化学特論	2
油脂及び塗料	3	工業化学輪読	2
有機合成化学	6	卒 業 論 文	12
工業化学系実驗	6	関連科目	
有機化学特論	1		電気工学概論
有機化学	5	機械工学概論	3
工業化学概論	3	金属工学概論	3
分析化学	4	工業英語	2
無機化学	5	体 育	1
工業電気化学	4		
酸・アルカリ化学	4		
肥料化学	4		
工業化学	4		
物理化学	4		
応用コロイド化学	3		
応用触媒化学	3		
化学工学	4		

備考 工業化学特論の単位数は必要に応じて定める。

金属工学科 (金属工学専攻)

学 目 科	単位数	学 目 科	単位数
専攻科目		選 鋳 学	2
金 相 学	4	金属工学概論	3
鉄鋼材料学	5	鉄冶金学第 1	2
金属物理学	1	鉄冶金学第 2	2
物理冶金学実驗	1	鉄冶金学特論	2
放射線工学	1	耐火材料	2
金属加工学第 1 属	2	製錬学実驗	2
金属加工学第 2 属	2	非鉄冶金学第 1	2
金属加工学第 3 属	2	非鉄冶金学第 2	2
金属加工学第 4 属	2	電気製鉄及び鋼製	2
非鉄金属材料	3	電気冶金学	3
非鉄鑄造	2	金属工学法	1
鉄鋼鑄造	4	材料試験法	2
金属加工学実驗	2	機械設計製図	2
材料試験実習	1		

機械工作法大意	2	分析化学	4
機械実習	1	電気工学概論	3
材料力学	2	物理化学	4
定性定量分析実験	2	工業化学概論	3
冶金分析実験	2	品質管理	2
冶金機械学	2	機械工学概論	3
燃料概論	2	酸・アルカリ肥料	2
金属工学特論		工業英語	2
卒業論文	10	体育	1
関連科目			
無機化学	4		

機械力学	4	工業力学	2
構造力学	2	応用力学演習	0.5
機械設計第1	4	鉄道車輛	1
機械設計第2	4	荷役機械	2
精密機械設計法	2	圧縮機械	2
工業熱力学	2	暖房冷凍	1
蒸汽原動機	6	紡織機械	1
内燃機関	3	流体機械第2	3
水力学	2	品質管理	2
流体力学	2	自動制御	2
流体機械第1	4	化学工学	4
工業計測	5	冶金機械	2
精密測定及び計測機器	4	工場管理及び経営	2
材料試験法	2	電気工学概論	3
機械工作法第1	6	金相学	2
機械工作法第2	4	鉄鋼材料	5
精密加工	2	非鉄金属材料	3
工作機械	4	電気実験大要	1
機械工学製図	8	工業英語	2
機械工学実習	7	体育	1

備考 金属工学特論の単位数は必要に応じて定める。

金属工学科 (機械工学専攻)

学 科 目	単 位 数	学 科 目	単 位 数
専攻科目		卒業論文	8
材料力学第1	3	関連科目	
材料力学第2	2	応用数学	2
機構学	3	応物物理	5

付則中「1月10日」を「4月1日」に改める。

人 事

官 職	氏 名	異 動 内 容	発令年月日
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部)	曾 根 末 次 郎	富山大学教授(文理学部)の併任を解除する	昭和30.3.31
〃	佐 々 亮	〃	〃
文 部 教 官 (金沢大学教授教育学部)	三 由 信 二	講師(富山大学教育学部)の併任は終了した	昭和30.4.1
文 部 教 官 (金沢大学助教授教育学部)	岩 井 隆 盛	講師(富山大学文理学部)の併任は終了した	〃
文 部 教 官 (金沢大学講師法文学部)	西 義 之	〃	〃
〃	永 田 鉄 三	講師(富山大学経済学部)の併任は終了した	〃
文 部 教 官 (金沢大学教授法文学部)	丸 岡 淳 夫	〃	〃
文 部 教 官 (静岡大学助教授鳥田分校)	永 森 正 治	〃	〃
文 部 教 官 (神戸大学教授経済学部)	久 保 田 晋 二 郎	〃	〃
文 部 教 官 (九州大学教授法学部)	高 田 源 清	〃	〃
文 部 教 官 (名古屋大学教授 分校)	正 木 一 夫	〃	〃
文 部 教 官 (山形大学講師文理学部)	伊 藤 善 市	〃	〃
文 部 教 官 (福井大学講師学芸学部)	吉 田 勇	〃	〃
文 部 教 官 (東京大学教授医学部)	秋 谷 七 郎	講師(富山大学薬学部)の併任は終了した	〃

官 職	氏 名	異 動 内 容	発 令 年 月 日
文部事務官 (富山大学文理学部事務長)	松 沢 義 治	文理学部分任収入官吏を免ずる	昭和30. 4. 1
文部事務官 (富山大学教育学部事務長)	片 山 源 二	教育学部分任収入官吏を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学経済学部事務長)	伊 東 良 一	経済学部分任収入官吏を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学薬学部事務長)	若 林 俊 吉	薬学部分任収入官吏を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学工学部事務長)	柳 瀬 茂 光	工学部分任収入官吏を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学会計課司計係長)	数 見 宇 佐 男	薬学部出納員を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学文理学部会計係長)	川 島 勇 次	文理学部分任収入官吏を命ずる 文理学部 出納員を命ずる 経済学部出納員を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学教育学部庶務係長)	洲 崎 茂	文理学部出納員を免ずる	〃
文部事務官 (富山大学教育学部会計係長)	民 谷 順 治	教育学部分任収入官吏を命ずる	〃
文部事務官 (富山大学経済学部会計係長)	安 守 数 雄	経済学部分任収入官吏を命ずる 経済学部出納員を命ずる	〃
文部事務官 (富山大学薬学部会計係長)	酒 井 弘	薬学部分任収入官吏を命ずる 薬学部出納員を命ずる	〃
文部事務官 (富山大学工学部会計係長)	中 島 国 衛	工学部分任収入官吏を命ずる	〃
	横 山 静 祺	文部教官 (富山大学助手経済学部) に採用 する	〃
文部教官 (富山大学長)	石 原 寅 次 郎	富山大学教授 (工学部) に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文部教官 (富山大学教授工学部)	南 日 実	富山大学教授 (薬学部) に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文部教官 (富山大学講師教育学部)	飯 原 藤 一	富山大学講師 (薬学部) に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
非常勤講師 (富山大学文理学部)	フ ロー レ ン ス ・ カ ル ソ ン	任用を更新する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
医 員 (富山大学文理学部)	福 田 博	〃	〃
〃	酒 井 義 昭	〃	〃
医 員 (富山大学教育学部)	福 田 美 明	〃	〃
〃	草 島 孫 三	〃	〃
〃	小 林 金 次	〃	〃
医 員 (富山大学経済学部)	羽 田 昌 三	〃	〃
医 員 (富山大学薬学部)	庄 司 吉 宗	〃	〃
医 員 (富山大学工学部)	松 田 三 知	〃	〃
技術補佐員 (富山大学厚生課)	改 井 四 郎	〃	〃
医 員 (富山大学薬学部)	庄 司 吉 宗	富山大学医員 (厚生課) に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	福 田 博	講師 (富山大学文理学部) に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	昭和30. 4. 11
	松 沢 芳 郎	〃	〃
	大 谷 重 彦	〃	〃
	松 倉 博 一	〃	〃
	尾 崎 進	〃	〃
	平 田 純	〃	〃
	林 夫 門	〃	〃
文部教官 (富山大学教授経済学部)	小 寺 廉 吉	富山大学教授 (文理学部) に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃

文 部 教 官 (富山大学教授経済学部)	渡 植 彦 太 郎	富山大学教授(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	昭和30. 4.11
"	花 井 益 一	"	"
"	城 宝 正 治	任期は昭和30年9月30日までとする	"
"	土 生 滋 穂	"	"
文 部 教 官 (富山大学助教授経済学部)	新 田 隆 信	富山大学助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
"	石 瀬 秀 治	"	"
文 部 教 官 (富山大学講師経済学部)	菅 原 修	富山大学講師(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部)	玉 生 正 信	富山大学教授(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学助教授教育学部)	黒 坂 富 治	富山大学助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
"	林 勝 次	"	"
"	林 三 雄	"	"
文 部 教 官 (富山大学教授文理学部)	下 斗 米 晟	富山大学教授(教育学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学教授経済学部)	小 寺 廉 吉	"	"
文 部 教 官 (富山大学助教授文理学部)	近 藤 堅 二	富山大学助教授(教育学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学助教授経済学部)	新 田 隆 信	"	"
文 部 教 官 (富山大学助教授工学部)	四 谷 平 治	"	"
文 部 教 官 (富山大学教育学部附属中学校教諭)	水 井 謹 作	"	"
文 部 教 官 (富山大学講師文理学部)	杉 木 新 平	富山大学講師(教育学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学助教授教育学部)	林 勝 次	富山大学助教授(経済学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学助教授教育学部)	沢 泉 重 夫	富山大学助教授(工学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学助教授文理学部)	永 原 茂	"	"
文 部 教 官 (富山大学助教授経済学部)	植 村 元 覚	富山大学助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和30年9月30日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学講師教育学部)	金 子 基 之	富山大学講師(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
"	"	富山大学講師(経済学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	"
"	有 沢 一 男	"	"
文 部 事 務 官 (富山大学附属図書館薬学部分館長)	村 上 清 造	富山大学助教授(薬学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	昭和30. 4.15
文 部 教 官 (富山大学教授経済学部)	渡 植 彦 太 郎	富山大学評議員に併任する 任期は昭和30年7月31日までとする	昭和30. 4.16
文 部 教 官 (富山大学講師教育学部)	村 西 三 郎	大教6級(九州大学助手農学部) に降任させる	"
文 部 教 官 (富山大学助教授経済学部)	石 瀬 秀 治	富山大学教職委員会委員を解く	"
"	新 田 隆 信	"	"
文 部 教 官 (富山大学教授経済学部)	土 生 滋 穂	富山大学教職委員会委員を命ずる	"
文 部 教 官 (富山大学講師経済学部)	田 中 文 信	"	"
文 部 教 官 (富山大学教授経済学部)	土 生 滋 穂	富山大学認定講習委員を命ずる 任期は昭和32年4月15日までとする	"
文 部 教 官 (富山大学講師経済学部)	友 杉 芳 春	"	"
	景 方 芳 文	雇(富山大学文理学部実験実習指導員) に採用する	昭和30. 5. 1
	田 上 昇 一 郎	雇(富山大学薬学部実験実習指導員) に採用する	"

官 職	氏 名	異 動 内 容	発令年月日
文部事務官 (富山学庶務課長)	五十嵐 淳	富山大学補導課長事務取扱を免ずる	昭和30. 5. 1
文部事務官 (富山大学厚生課長)	紺野 定三	富山大学補導課長に配置換する	〃
文部事務官 (富山大学薬学部事務長)	若林 俊吉	富山大学厚生課長に昇任させる	〃
文部事務官 (富山大学庶務課庶務係長)	田屋 世治	富山大学薬学部事務長に昇任させる	〃
文部事務官 (富山大学厚生課厚生係長)	林 友太郎	富山大学補導課補導係長に配置換する	〃
文部事務官 (富山大学補導課補導係長)	泉田 利享	富山大学庶務課庶務係長に配置換する	〃
文部事務官 (富山大学庶務課)	吉田 徳正	富山大学厚生課厚生係長に昇任させる	〃
文部事務官 (富山大学文理学部)	鍋木 隆二	富山大学庶務課に配置換する	〃
雇 (富山大学補導課)	川原 越雄	富山大学文理学部に配置換する	〃
雇 (富山大学文理学部実験実習指導員)	高田 俊二	文部教官に任官させる 富山大学助手(文理学部)に昇任させる	〃
	福田 武	講師(富山大学教育学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	和泉 三郎	〃	〃
	西出 靖夫	〃	〃
	齊藤 現常	〃	〃
	梅原 実太郎	〃	〃
	松本 利一	〃	〃
	林 夫門	〃	〃
	鯨谷 喜兵衛	〃	〃
	村杉 弘	〃	〃
	菅野 貞雄	〃	〃
	関谷 政雄	講師(富山大学経済学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	村井 藤十郎	〃	〃
	塩岡 貞次郎	講師(富山大学薬学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	庄司 吉宗	〃	〃
	浅地 実	講師(富山大学工学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	一宮 宗英	〃	〃
	水牧 忠介	〃	〃
	近藤 正男	〃	〃
	宇津 一郎	〃	〃
	牧島 玄一郎	〃	〃
	萩野 啓之助	講師(富山大学教育学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	山本 秀正	傭人(富山大学教育学部作業員) に採用する	昭和30. 5. 10
文部教官 (富山大学助教授教育学部)	蜷川 栄作	富山大学付属図書館教育学部分館長の併任 は終了した	昭和30. 5. 12
〃	神保 放牛	富山大学付属図書館教育学部分館長に併任 する 任期は昭和32年5月11日までとする	〃
文部教官 (和歌山大学教授経済学部)	齊藤 利三郎	講師(富山大学経済学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	昭和30. 5. 15

文 部 教 官 (富山大学学生部長)	渡 植 彦 太 郎	昭和30年度富山大学科学教育研究室主事を命ずる 期間は昭和30年12月15日までとする	昭和30. 5.16
文 部 教 官 (富山大学教授文理学部)	高 瀬 重 雄	昭和30年度富山大学科学教育研究室指導員を命ずる 期間は昭和30年12月15日までとする	〃
〃	福 井 憲 二	〃	〃
〃	植 木 忠 夫	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学助教授文理学部)	小 林 貞 作	〃	〃
〃	近 藤 堅 二	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学講師文理学部)	桑 田 秋 水	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学助教授教育学部)	松 為 周 従	〃	〃
〃	蜷 川 栄 作	〃	〃
〃	高 森 乙 松	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学講師教育学部)	大 沢 欽 治	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授文理学部)	大 島 文 雄	〃 期間は昭和30年9月15日までとする	〃
文 部 教 官 (富山大学講師経済学部)	菅 原 修	富山大学助教授(経済学部)に昇任させる	〃
文 部 教 官 (富山大学助手経済学部)	柴 田 裕	富山大学講師(経済学部)に昇任させる	〃
文 部 教 官 (富山大学講師経済学部)	菅 原 修	富山大学講師(文理学部)の併任を解除する	〃
文 部 教 官 (富山大学助教授経済学部)	〃	富山大学助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部)	佐 々 亮	富山大学教授(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文 部 教 官 (富山大学講師教育学部)	飯 原 藤 一	富山大学講師(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
〃	有 沢 一 男	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学助手教育学部)	勝 島 房 枝	富山大学助手(文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文 部 教 官 (金沢大学教授法文学部)	清 水 兼 男	講師(富山大学経済学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
〃	丸 岡 淳 夫	〃	〃
文 部 教 官 (金沢大学講師法文学部)	永 田 鉄 三	〃	〃
非 常 勤 講 師 (富山大学文理学部)	フ ローレンス・ カ ル ソ ン	辞職を承認する	昭和30. 5.25
文 部 教 官 (富山大学講師工学部)	林 大 輔	〃	昭和30. 5.31
雇 (富山大学付属図書館薬学部分館)	山 田 和 子	〃	〃
臨 時 筆 生 (富山大学文理学部)	宮 武 康 之	〃	〃
文 部 教 官 (九州大学教授法学部)	高 田 源 清	講師(富山大学経済学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	昭和30. 6. 1
非 常 勤 講 師 (富山大学工学部)	牧 島 玄 一 郎	講師(富山大学文理学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
〃	井 村 定 久	文部教官(富山大学講師工学部)に採用する	〃
文 部 教 官 (金沢大学教授教育学部)	三 由 信 二	講師(富山大学教育学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
〃	高 畑 謙 治	臨時筆生(富山大学工学部)に採用する 任期は昭和30年9月29日までとする	〃
臨 時 筆 生 (富山大学付属図書館)	牧 野 公 子	富山大学付属図書館薬学部分館に配置換する	〃
文 部 教 官 (富山大学助教授薬学部)	倉 田 軍 一	昭和30年度文部省内地研究員を命ずる	〃
文 部 教 官 (富山大学助教授文理学部)	館 熙 道	〃	〃

官 職	氏 名	異 動 内 容	発 令 年 月 日
文 部 教 官 (富山大学助教授経済学部)	池 田 直 視	昭和30年度文部省内地研究員を命ずる	昭和30. 6. 1
	W. F ラ ッ ツ	講師(富山大学文理学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	小 柴 値 一	講師(富山大学文理学部)に採用する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
	楠 顕 秀	〃	〃
	若 林 繁	〃	〃
文 部 教 官 (山形大学助教授文理学部)	伊 藤 善 市	講師(富山大学経済学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文 部 教 官 (東京大学教授医学部)	秋 谷 七 郎	講師(富山大学薬学部)に併任する 任期は昭和31年3月31日までとする	〃
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部)	渡 辺 重 雄	富山大学教育学部長の併任は終了した	〃
〃	〃	富山大学教育学部長に併任する 任期は昭和32年5月31日までとする	〃
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部長)	〃	富山大学評議員の併任は終了した	〃
〃	〃	富山大学評議員に併任する	〃
文 部 教 官 (富山大学教授文理学部)	吉 川 美 夫	富山大学評議員の併任は終了した	〃
〃	原 富 慶 太 郎	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部)	白 川 今 朝 晴	〃	〃
〃	山 本 健 暦	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授薬学部)	中 沖 太 七 郎	〃	〃
〃	志 甫 伝 逸	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授工学部)	上 野 亨	〃	〃
〃	室 町 繁 雄	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授文理学部)	柴 田 万 年	富山大学評議員に併任する 任期は昭和32年5月31日までとする	〃
〃	島 崎 藤 一	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授教育学部)	石 井 逸 太 郎	〃	〃
〃	溝 上 茂 夫	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授薬学部)	中 沖 太 七 郎	〃	〃
〃	三 橋 監 物	〃	〃
文 部 教 官 (富山大学教授工学部)	森 棟 隆 弘	〃	〃
〃	上 野 亨	〃	〃
	蔵 北 博	臨時筆生(富山大学文理学部)に採用する 任期は昭和30年9月29日までとする	昭和30. 6. 8
備 人 (富山大学工学部作業員)	山 東 松 太 郎	療養を命ずる 療養の期間は昭和30年9月23日までとする	昭和30. 6. 24
〃	〃	辞職を承認する	昭和30. 6. 30
雇 (富山大学教育学部)	寺 島 兵 吉	〃	〃
文 部 教 官 (福島大学教授学芸学部)	吉 岡 邦 二	講師(富山大学文理学部)に併任する 任期は昭和30年7月31日までとする	昭和30. 7. 1

学内通知

工学部機械工学科・薬学部 薬学専攻科設置認可せらる

第3次査定に入ったことは既報のとおりであるが、今回正式に文部事務次官事務代理から学長あてにそれぞれ設置認可通知があつた。

ここに改めて各方面の御配慮に対し深甚の謝意を表するとともに、今後更に施設の拡充、設備の充実を図り教育と研究の実を挙げ、御期待にそむかないよう努めたいと思う。

なお入学定員等は次のとおり。

◎工学部機械工学科

- 1. 入学定員 30名
2. 修業年限 4年
3. 開設年次 第1年次
4. 開設時期 昭和30年度

◎薬学部薬学専攻科(薬学専攻)

- 1. 入学定員 7名
2. 修業年限 1年
3. 開設時期 昭和30年度

昭和30年度文部省科学研究費等について

本学関係の昭和30年度文部省科学研究費の決定者は下記のとおりである。

◎科学研究費交付金一各個研究

Table with 5 columns: 課題番号, 研究課題, 研究担当者氏名, 査定研究費, 備考. Rows include 58114 (AI合金の連続製造) and 75029 (ピリタゼン類の含硫化合物).

◎科学研究助成補助金一助成研究

Table with 5 columns: 課題番号, 研究課題, 研究担当者氏名, 査定研究費, 備考. Rows include 13116 (フランツ・グリルパルツェル), 403057 (マイクロ波による分子構造), 407042 (放射性同位元素による植物の起源), 51022 (ブルドン管の変位), 21037 (北陸地区における労働者企業参加), 31186 (ジョン・ロックにおける国家と租税).

Table with 5 columns: 課題番号, 研究課題, 研究担当者氏名, 査定研究費, 備考. Rows include 75017 (地衣成分の微量化学的研究), 75018 (L及びW-各種環状高級脂肪酸), 405094 (トルエルを原料とするテレフタル酸), 58059 (高圧鋳造材の研究).

化学研究促進補助金

昭和30年度予算案中に今年度から新しく科学研究の推進策として「化学研究促進補助金」が設けられ予算総額1億5千万円が確定し195題の交付申請者の内から慎重審査が行われた結果23課題に対する補助が決定せられたが幸い本学関係においては下記課題が採用受給されることになった。

◎化学研究促進補助金

Table with 5 columns: 課題番号, 研究課題, 研究担当者氏名, 査定研究費, 備考. Row includes 067 (硫酸焼鉍の新脱銅法とペレットの製造).

昭和30年度文部省内地研究員決定

本年度文部省内地研究員は次のとおり決定し本年6月より明年3月まで所定の場所において研究することになった。

Table with 6 columns: 学部, 官職, 氏名, 研究科目, 研究題目, 研究場所. Rows include 文理学部 (館 熙道), 経済学部 (池田直視), 薬学部 (倉田軍一).

海外出張教官の帰朝

文理学部須沼吉太郎助教授にはアメリカ、ロスアンゼルス市、南カリフォニヤ大学において現代アメリカ英語、特にその文法、発音を中心とする研究のため昨年8月アメリカ合衆国へ出張中のところ8月4日帰朝した。

学生相談所の開設

学生の、一身上における諸問題の解決について、相談教官が、専門的立場で、詳細に相談を受ける学生相談所を8月1日から開設した。

相談の主な事項は、学業、人生、経済、職業、健康、精神衛生、対人関係、家庭、住居、その他で、設置要綱教官氏名は、つぎのとおりである。

学生相談所設置要綱

- 1. 名 称 富山大学学生相談所と称する。
- 2. 目 的 本学学生の一身上の相談に応じ、これに助言指導を与える。
- 3. 組 織 (1) 相談所は学生部の所属とする。
(2) 所長、委員及び助手をおき、学長がこれを委嘱する。
(3) 所長は学生部長、委員及び助手は補導協議会の推薦したものとする。
- 4. 運 営 (1) 所長は所務を掌り委員は相談申込学生に面接しこれに指導助言を与え助手は委員の任務を助ける。
(2) 事務は補導課が主管する。
- 5. 設置期日 昭和30年8月1日とする。

学生相談所職員

昭30.8

所 長	学 生 部 長	渡 植 彦 太 郎
委 員	教 授 文理学部	植 木 忠 夫
〃	講 師 〃	福 田 博
〃	教 授 教育学部	入 沢 寿 夫
〃	助 授 〃	林 三 雄
〃	〃 〃	吉 田 博
〃	講 師 〃	泉 敏 郎
〃	教 授 経済学部	渡 植 彦 太 郎
〃	〃 〃	土 生 滋 穂
〃	助 授 〃	石 瀬 秀 治
〃	教 授 薬学部	中 沖 太 七 郎
〃	〃 工学部	南 日 実
助 手	助 手 教育学部	中 川 孝
〃	〃 経済学部	山 本 英 治

学報編集委員委嘱及び解嘱

富山大学学報編集委員を委嘱する。

学生部 補導係長 林 友 太 郎 (30. 5. 1)

富山大学学報編集委員を解く。

事務局 庶務係長 泉 田 利 享 (30.5.1)

部 局 情 報

工学部教官の学位取得

工学部金属工学科第2講座担当の 室町繁雄教授 は、さきに東京工業大学へ論文提出中のところ、昭和30年7月7日付工学博士(論文アルミニウム合金の連続鑄造に関する基礎的研究)の学位を授与された。

試験炉について

工学部 養 田 実

戦災スクラップ回収の波に乗って戦後再び再生鉄ブームとも云うべきものが訪れた。昭和21年頃から屢々工場見学を行っていたが、工場側と計つて23年から25年迄現場の検討に当つた。文献資料の全く無い分野である事と全国各地各様の方法で何等抛り所のない点に鑑み、其本性を把握して最も合理的な標準を見出す事が当初の目的であつた。然し乍ら工場営業用の炉を其儘実験に供する事の無理と学内を離れて出歩く事の不便の為に、試験炉の必要を痛感する様になつて来た。試験炉建設の核となつたものは通産省の補助金であるがこの指示は当時工学部長として着任された石原現学長先生からであつて、それによつて予てから先輩として親しく面識のあつた三橋通産技官を訪ねたのを皮切りに、省内の友人並に各係官の理解を得る為に幾度か交渉を進めた。又通産省は大学と直結出来ないので申請者として県工試北村場長の好意ある承認を頂いた。当時此問題が国家的課題として採り挙げられた事も確かであるが、一般に通産省の補助金を貰う為には相当の経費を注ぐ事が通念とされていたのに、全くの無手勝流で省内でも異例中の異例として許可になつたと云う事は、多くの知己友人の好意を感謝すると共に顧みて感慨を新にするものである。

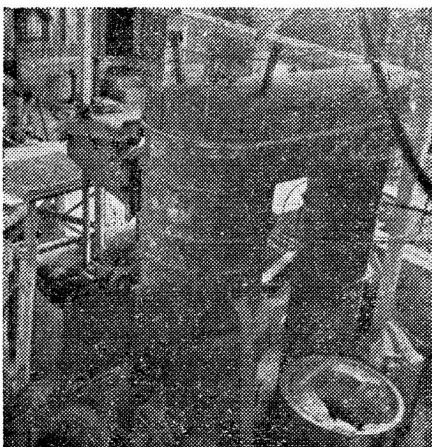
補助金の50万円を受けたのは26年の8月で是を基にして其数倍に当る資金の獲得に踏み出したのであつた。資金と云うよりも築炉に必要な資材であるが通産省、鋼管、鉄鋼連盟等の知人を頼つて何回も寄附の依頼に上京した。炉体外框用の鉄板は運賃会社持ちで九州の八幡製鉄から送られて来た。大量の耐火煉瓦とパイプは日本鋼管で了解を得た筈であつたが容易に進捗しなかつた。石原先生自ら事務長と本社を訪ねて承諾を得て来られたりしたのであるが夫でも仲々具体化せず幾度か上京し交渉を重ねた。議決の通知を社内の友人から受けたのは27年6月で其結果一部有償を含めて8月末に現物が届いた。業界不振の際遠隔の大学に多額の寄附をする事は稀別の処置であつたと思われる。其後も新湊の鋼管から資材等多くの好意ある支援を頂く事が出来た。建物模様替工事に関しては大学本部の方々の御骨折を頂いて補助金のる倍にも相当する額であつたが此方は幸い迅速に進められた。

炉の設計は従来の資料を基に各種の文献を参考にし相当苦心して行つた。此種の目的としては最小限の形の積りであるが、試験炉の欠点である熱効率に関しては特別の考慮を払つた。鉍石や鋼を溶かす為には炉内を高温にせねばならないので熱風装置が必要であるが鉄管式と蓄熱式を併用する新しい試みをする事になつた。各種の試験に充分耐える様色々な場合を考えて特別な設計を行つた積りであるが、常に石原先生の検討を頂いて何回も変更して出来たものである。築炉工事の概要は湊町製作が担当したが、仲々複雑

で相当苦心した様である。此炉が出来上る迄には文部、通産両省及会社の支援を多く受けており、前記の他にも七尾珪藻土会社からイソライトを頂いたり、日本製鋼中村氏の世話でワイヤロープ必要量70米を川崎の工場から送り届けて頂いたりした。此等を換算すると400万円程になる。

又装入原料に就ては鋼管の滝沢前所長の好意で鋼屑15屯、コークス10屯半及石灰石屯の応援を頂く事が出来た。

斯うして漸く炉が出来上り運転の用意も備つたのであるが、操業経費が得られず放置の状態にあつた。余り残念なので銻物組合の老子理事長に頼んで若干の私費を以て試運転する事になつた。一昨年の暮であつたが幸にして特殊な構造にも拘らず炉も快調で満足すべき結果を得た。此実験は冷風コースで行つたが予てから熱風コースに於ける蓄熱室切替弁の漏風に苦心していた。此弁は相当巧妙に考えた積りだが工作に精密を要するのでうまくゆかなかつた。その解決に八幡、富士、鋼管の各社を訪ね結局鋼管の川崎で採用したブローノックスと云う戦後アメリカから紹介された新方式を使つてみる事にした。丁度其頃着任された機械の林講師に其設計を頼んだ。ところが工作の困難などもあつて意外に難航し一年程も手直しに苦勞する事となつた。此頃には予て申請中の研究費が学長先生や事務の方々の御力添で得られた為に進捗させる事が出来た。其間特殊装入装置を先生の御指摘に依つて新設した。排風装置の新設、切替弁等の解決したのが漸く本年3月初であつて、再び老子の応援で13日に熱風コース操業を行い、最初乍ら相当思い切つた実験条件で敢行したが幸に頗る順調であつた。此日老子の職長の強い要望もあつたので神主を招き火入式を行つた。学長、学部長両先生は共に風邪で列席されなかつたが予てから援助を頂いている菊池鋼管所長、北村試験場長、老子製作社長並に学内の関係諸賢にお出を願つた。此日の成功に依つて今後幾多の実験を遂行する力強い第一歩を踏み出した事になる。



此炉は小型熔鋳炉とも熱風キユボラとも云えるもので昨秋から着手して東大でも最近作つたが、熔鋳炉や平炉の無い北陸としては一つの模型ともなり、云わば各種炉の融合体の様なもので操業のみでなく構造上でも学生勉学の資と

なるものと思われる。

この数年間に学界の趨勢も相当推移した。戦後アメリカから盛んになり出して高力鋳鉄製造では高温熔解を標榜して鋼屑を駆使しようとして来たし、一方低形の小型熔鋳炉で鋳石を熔錬する国際的研究が歐洲を中心として世界的に普及しつつある。今迄数年間に亘る苦心と学内外から積局的な御支援を頂いて漸く試験炉も軌道に乗りかけて来たが、今後一層の御援助を仰いで世界の潮流に棹し、何程かの新分野を開拓し度いものと念願している。

附属図書館工学部分館にバツクナンバー「Ohm」21か年分寄贈さる

名古屋市昭和区長池町2ノ26で電気商会を自営される池森亮吉氏から、去る5月26日工学部分館が、電気雑誌「Ohm」自第11巻(大正13年)至第31巻(昭和19年)にわたる21か年分の寄贈を受けた。同誌は戦時中一時「電気日本」と改題したが、再び「Ohm」に戻り、現在第42巻まで発行継続の電気関係国内雑誌中有力な技術雑誌で、殊に今度寄贈のものは、ちょうど工学部分館に欠本となつている部分である。

池森亮吉氏は高岡工専電気科第4回(昭和25年3月)卒業生で、同誌を継続購入されたのは、富山市永楽町1ノ1に在住され、現在北陸電力富山支店変電課に勤務の父君池森武次氏である。21年間も同一雑誌を継続購入していると、非常な愛着を覚え、手放し難くなるのは人情の常だが、自分一人で骨董的趣味に浸っているよりも、より多くの人々にひろく利用されんことを望んでおられた矢先、子息亮吉氏の懇請を入れ母校である工学部分館へ寄贈手続となつたものである。

大 学 祭

学生自治会連合主催で、大学祭を次の日程で挙行した。

- ◇ 前夜祭 富山旧城址 5月28日
仮装行列、市中デモンストレーション、フォークダンス、ファイヤー、ストーム、
- ◇ ダンス・パーティー 工学部講堂 28日
- ◇ 学術研究発表会 富山公会堂 29日
- ◇ 座談会(午前) 坂田、岡本講師を囲んで 文理学部、
原子力をめぐつて 富山公会堂
◇ 名古屋大学教授 坂田昌一 30日
- ◇ 講演会(午後) これからの世界と
日本の進むべき道
同志社大学教授 岡本清一
- ◇ ダンスパーティー 富山電気ビル 30日
- ◇ 演劇 高岡公会堂 30日
- ◇ 運動大会 教育学部 31日
- ◇ 教養教室、懇談会、富山中部高校、高岡工学部 31日
- ◇ 展覧会 富山商工奨励館
絵画展、写真展、書道展、平和展、 29日
アジア展、国際児童画展 30日
31日

- ◇ 映画会 6月11, 12日 電気ビル
女だけの都 自由を我等に
- ◇ リサイタル 6月13日 富山公会堂
安川加寿子 ピアノ独奏会
- ◇ 放送文化 LRより 放送劇 『名ある笛』

日 誌 抄

- 4. 8 第7回入学式挙行
- 4. 15 第1回評議会開催
- 4. 28 第2回評議会開催
- 〃 次期教育学部長候補者選挙執行
- 5. 13 第3回評議会開催
- 5. 14 第1回補導協議会開催
- 5. 16 昭和30年度科学教育研究室入室式挙行
- 5. 19 事務協議会開催
- 5. 27 第2回補導協議会開催
- 5. 28 富山大学学生自治会連合主催大学祭開幕, 6月12日までに亘り多彩な行事が行なわれた。
- 5. 29 第29回北陸学生陸上競技対校選手権大会開催 (主催北陸学生陸上競技連盟, 主管富山大学, 於県営陸上競技場)
- 6. 3 第4回評議会開催
- 6. 4 教職教養履修方法立案委員会開催
- 6. 11 第3回補導協議会開催
- 6. 12 第4回北信越学生柔道優勝大会開催 (主催北信越学生柔道連盟, 主管富山大学柔道部, 於教育学部)
- 6. 14 第4回補導協議会開催
- 6. 17 職業補導担当者会議開催
- 6. 22 高電圧工学実験室完成披露式挙行
- 6. 28 第5回補導協議会開催
- 7. 1 工学部に機械工学科増設認可
- 〃 薬学部に薬学専攻科設置認可
- 7. 2 事務協議会開催
- 7. 5 富山大学, 県下高等学校連絡協議会開催
- 7. 8 第5回評議会開催
- 7. 10 第7回北陸三大学総合体育大会 (主催北陸三大学学生体育競技連盟, 主管福井大学) に本学学生 264 名参加
- 〃 8月15日まで立山研究室開設
- 7. 12 事務協議会開催
- 〃 第5回北陸三県大学学生交歓芸術祭運営委員会開催 (於教育学部)
- 7. 13 14日まで共済組合事務実地監査実施
- 7. 15 事務協議会開催

- 7. 16 次期文理学部長候補者選挙執行
- 7. 18 経済学部新校舎上棟式挙行
- 7. 21 学部長会議開催
- 7. 22 第6回補導協議会開催
- 7. 23 次期薬学部長候補者選挙執行
- 7. 25 8月29日まで 昭和30年度現職教育講座開催
- 7. 29 第6回評議会開催

